

令和5年度 全国硬筆コンクール課題参考手本

大平恵理書

春は花

夏ほととぎす

秋は月

冬雪さええて

すずしかりけり

学年

小五

氏名

※次のむすび方でもよい。「ほ

ほ

第12回全国書写書道総合大会 主催 一般社団法人日本書字文化協会 共催 公益財団法人文字・活字文化推進機構

課題解説

春夏秋冬

鎌倉時代の有名なお坊さんの道元禪師どうげんぜんじが作った和歌です。日本の春夏秋冬をそれぞれに代表するものを並べています。

花は桜ですね。ほととぎすは夏の渡り鳥ですが、昔から日本人にとっても親しまれ、多くの文学作品にも取り上げられてきました。百人一首にも「ほととぎす 鳴きつる方をながむれば ただ有明の 月ぞ残れる」という和歌があります。中秋の名月、そして冬の雪。ここで言う「すずしい」は、すがすがしいの意味です。

ありのままの自然の美しさを並べただけ、とも言えますが、その美しさを素直に受け止める気持ちになれることが大切だと言われています。花、ほととぎす、月そして雪に込めた古来からの日本人の心を感じましょう。

道元どうげん―鎌倉時代初期の禅僧で曹洞宗そうどうしゅうの開祖。福井県にある曹洞宗大本山永平寺えいへいじを開いた。この和歌も、永平寺で夜空を見上げていて詠んだものとも言われている。自然の美をそのままに感じる心が禅の境地きょうちだと説いたものだという。

(課題文は「書文協ことば会議」選定・創作)